

職業分類の課題に対する見直し方針案

- 第6回研究会の資料2で職業分類の見直しにおける課題を29個に整理したところ。
- このうちNo.1～No.10については、職業分類の目的等の整理や一般原則の検討において具体的な検討を行う予定である。
- 課題No.11～No.29のうち、課題No.13及びNo.16を除く項目は、第8回研究会までにおいて整理されている。

① 【課題No.13】 デジタル・IT系分野の職業の見直し

(課題)

デジタル・IT系分野の職業については、中分類10「情報処理・通信技術者」に多くが分類されているところ。

一方、当該分野の職業については、社会や経済等の変化に伴い従事者の増加、新たな職種誕生など大きな変化があったことから、重点的に議論し、新たな職業を適切に立項する必要があるのではないかと。

⇒ これまでの研究会での議論内容やデジタルスキル標準等の情報収集を行い、国際標準職業分類（ISCO）、厚生労働省編職業分類、民間求人サイトで設定されている職業を参考に、最新の各職業を構成する課業の組み合わせや性質などを整理する。

② 【課題No.16】 大分類Bにおける高度の専門的水準

(課題)

日本標準職業分類では、高度の専門的水準において、科学的知識を応用した技術的な仕事に従事する者及び専門的性質の仕事に従事する者を大分類B「専門的・技術的職業従事者」に分類している。

新たな職業を検討するにあたって、大分類Bに分類される「高度の専門的水準」について、どのような観点で判断しているのか、国際比較の観点も踏まえ、整理すべく検討してはどうか。

⇒ 資料7 参照